２０２４年度事業報告

２０２４年度は新型コロナウイルス感染症が５類へと移行されて１年以上が経過し、注意をしつつも一律の厳しい感染対策を求められることはなくなった。保育園や幼稚園、学校や職場でも行事やイベントなどはほぼコロナ前のように開催されるようになってきた。世界を見ても大きなイベントであっても特に問題視されることなく開催され、国内においてもスポーツイベントやコンサートなど問題なく開催された。外食産業に関しても客足が戻ったように見られ、居酒屋もコロナの影響を感じることは無くなり活気に溢れたものであった。

私たちの職場である医療機関や施設においての面会は各々の判断で実施されるようになり、コロナ前と変わらない条件で実施する所も見られるようになってきた。これに伴い、私たちも患者やクライアントの家族と面会の際に直接会うことが出来るようになりスムーズなやりとりが出来るようになった。そして、コロナ禍で学んだ動画やオンラインを活用することは、もはや普段の業務を円滑に進める上での有効なツールとなっている。

このような情勢の中で当協会は様々な事業の活動を行ってきた。研修に関してはオンライン開催を多く実施しつつも会場での対面開催も実施してきた。東京都からの受託事業である地域巡回医療福祉相談会は各ブロックでイベントや祭りに直接参加して実施できるようになり、電話相談の医療と暮らしのほっとラインも相談員を募って予定通り毎月開催することができた。新人研修やグループスーパービジョンは他の研修事業と同様にオンライン開催と会場での対面開催と両方を取り入れての開催となった。各ブロック活動においてもオンラインを活用しつつ、対面での勉強会や見学会や交流会なども開催した。また、社会問題対策部の都民向け公開講座は昨年度と同様に会場とオンライン参加のハイブリッド形式で開催され、多くの方に参加してもらうことが出来た。各小委員会も基本的にはオンラインで会議を開き、必要時に適宜対面開催とした。理事会活動としては、理事同士の繋がりを深めるということを主眼とすることだけでなくその業務負担軽減も考え、オンラインと直接出席によるハイブリッド開催、会場への直接出席のみの対面開催、そして平日夜間のフルオンライン開催と、３つの形式で開催した。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

１．一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
２．事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めた。
３．医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。
４．東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
５．協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
６．対面（一部オンライン）での講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
７．医療福祉相談事業の充実に努めた。
８．医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。

Ⅰ．管理運営報告

１．公益法人の要件整備に努めた。
（１）公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
（２）協会事務所の事務局体制を週４日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
（３）公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた。

２．公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
（１）都民に対しての公開講座を会場・オンラインのハイブリットで開催した。
（２）江戸川区医療福祉相談会を開催した。
（３）西東京市医療福祉相談会を開催した。
（４）葛飾区医療福祉相談会を開催した。
（５）江戸川区神経難病検診を実施した。
（６）豊島区医療福祉相談会を開催した。
（７）医療関連１２団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに参加した。

３．医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。

４．他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。

５．ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。

６．広報活動
（１）ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
（２）会員向けに「東京ＭＳＷ」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。

７．次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
（１）地域巡回医療福祉相談事業
（２）電話相談事業（医療と暮らしのほっとライン）
（３）医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
（４）グループスーパービジョン（３講座）

８．求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。

９．会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。

１０．相談会活動時に会員を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

１１．理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

１２．未加入ソーシャルワーカーの入会を促進した。

１３．倫理委員会を設置した。

１４．診療報酬改定研修会を開催し会員の知識向上に努めた。

１５．会員の異動状況（２０２４年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	５９	８	２	６９
退会者数	６０	７	３	７０
現会員数	４９８	６９	１２	５７９

（異動者数含まず）　　＊2025 年 3 月 31 日現在

表１．ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4月	4/16　世話人会（引継ぎ会）	**4月**	4/5 世話人会・巡回相談実行委員会
5月	5/17　世話人会	**5月**	5/18 地域巡回相談会　八王子福祉まつり
6月	6/14　世話人会 ブロックニュース発送	**6月**	
7月	7/26　懇親会	**7月**	7/5　交流会　２ブロック会員交流会 立川駅周辺
8月		**8月**	
9月	9/6　世話人会	**9月**	9/13　世話人会
10月	ブロックニュース発送	**10月**	10/26　相談会　八王子介護フェア
11月	11/8　世話人会 11/10　巡回相談会 「東村山市民産業まつり」 11/15　勉強会 「障害年金について」 講師：障害年金・雇用サポート協会　杉本氏	**11月**	
12月		**12月**	
1月	1/17　世話人会	**1月**	
2月	2/28　世話人会 ブロックニュース発送	**2月**	
3月	3/7　情報交換会、懇親会（予定）	**3月**	3/18　勉強会 能登半島自身現地支援報告会

世話人・運営委員			世話人・運営委員		
	◎	小野紋（東大和病院）		◎	山本君枝（相武病院）
	○	大出一翔（佐々総合病院）		○	小野瀬光夫（永生病院）
	▲	山口圭太（新山手病院）		▲	安田桃花（康明会病院）
		来山剛士（東大和病院）			晝場朱莉（立川相互病院）
		井上孝義（信愛病院）			佐藤恵美（ｸﾞﾘｰﾝｸﾞﾗｽ南大沢ｸﾘﾆｯｸ）
		浅沼万里子（南台病院）			

（ブロック世話人名簿　◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

表２．ブロック活動状況

第3ブロック			第4ブロック		
4月	4/9　世話人会・巡回相談実行委員会		**4月**	4/23　世話人会・巡回相談実行委員会	
5月	5/16　世話人会・巡回相談実行委員会		**5月**		
6月			**6月**	6/11　世話人・巡回相談　集まり	
7月	7/26　研修会（名刺交換会）		**7月**	7/31　巡回相談　集まり	
8月			**8月**		
9月	5/16　世話人会・巡回相談実行委員会		**9月**		
10月	10/5　地域巡回相談会 北区「ふるさと北区区民まつり」		**10月**	10/9　巡回相談　集まり 10/12　巡回相談会　千代田区福祉まつり 10/22　巡回相談会　世話人会	
11月	11/26　世話人会・独自相談実行委員会		**11月**		
12月	12/8　独自相談会 「豊島区健康展」 12/23　世話人会		**12月**	12/4　世話人会	
1月			**1月**	1/7　世話人会　勉強会打ち合わせ 1/27　勉強会「病院と地域を繋ぐ多職種連携」	
2月	2/7 研修会（食支援を学ぶ）		**2月**		
3月	3/14 懇親会		**3月**	3/6　世話人会　勉強会の振り返り	
世話人・運営委員	◎	高山　亮	**世話人・運営委員**	◎	伊海陽介（東京医科大学病院）
	○	宮本　博司		○	駒村穂乃香（東京慈恵医大病院）
		中野　怜美		▲	藤村悦子（三井記念病院）
	▲	沼田　裕佳子		▲	田中瑠称（東京科学大学病院）
	▲	石黒　裕子			
	▲	荒田　晴香			
		下田　尚子			
		廣瀬　久美子			

（ブロック世話人名簿　◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

表３．ブロック活動状況

第５ブロック		第6ブロック	
4月		**4月**	4/2　世話人会
5月	5／24　世話人会	**5月**	5/29　世話人会
6月		**6月**	6/28　世話人会
7月		**7月**	
8月	8／6　世話人会 8／8　研修会「言語聴覚士による訪問での嚥下リハビリ」	**8月**	8/29　世話人会
9月		**9月**	
10月	10／11　世話人会	**10月**	10/16　世話人会
11月	11／10　地域巡回相談会「葛飾ロイヤルケアセンターゆめマルシェ」 11／29　情報交換会 11／29　世話人会	**11月**	11/9　巡回相談会「玉川福祉フェスティバル」
12月		**12月**	12/18　世話人会
1月		**1月**	1/30　研修会「MSWの災害支援講演会」
2月	2／26　大内病院見学会	**2月**	2/19　世話人会
3月		**3月**	3/7　研修会「都心障見学会」（予定）

世話人・運営委員		**世話人・運営委員**	
◎	加藤郁子（福寿会病院）	◎	宮本麻子（大田病院）
○	加藤大介（東京東病院）	○	岩渕麗奈（NTT東日本関東病院）
	上田美佐江（がん研有明病院）	○	小嶌依子（NTT東日本関東病院）
	佐藤智美（清澄ケアクリニック）	▲	戸部絵理（河北総合病院）
	須藤純子（京葉病院）	▲	築島郁乃（奥沢病院）
	中川智香子（がん研有明病院）		林未来（シーダ・ウォーク）
			北川聖奈（シーダ・ウォーク）
			廣川利恵子（第三北品川病院）
			安井早苗（第三北品川病院）

（ブロック世話人名簿　◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

表４．ブロック活動状況

第7ブロック	
4月	
5月	5/27 世話人会
6月	
7月	
8月	8/28 世話人会
9月	9月下旬　　ブロックニュース発行
10月	10/6 巡回相談 「府中福祉まつり」
11月	11/8 交流会 国分寺で非会員含め9名参加
12月	12/8 独自相談会 「調布市福祉まつり」
1月	
2月	2/3　　世話人会 ２月初旬　ブロックニュース発行 2/26　　勉強会 2/26　　「身元保証について」
3月	

世話人・運営委員	◎	奥野朋子（都立神経病院）
	○	人見素子（都立多摩総合医療センター）
		井上敬介（分梅クリニック）
	▲	大川真央（武蔵野赤十字病院）

（◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

Ⅱ． 各事業報告

【定款第１号事業】

１） 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

１．地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、企画運営委員会を中心に各ブロックで実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年７回実施した。

	担当	日程	名　称 (開催場所)	相談件数
第１回	２B	5 月 18 日(土)	第 40 回八王子福祉まつり (八王子駅北口)	6
第２回	３B	10 月 5 日(土) 10 月 6 日(日)	第 41 回ふるさと北区　区民まつり (赤羽会館)	9
第３回	７B	10 月 6 日(日)	第 44 回府中福祉まつり (けやき並木通り・ペデストリアンデッキ)	3
第４回	４B	10 月 12 日(土)	第 22 回ふれあい福祉まつり (千代田区役所本庁舎　かがやきプラザ)	7
第５回	６B	11 月 9 日(土)	玉川福祉フェスティバル (玉川総合支所コミュニティ広場)	１０
第６回	５B	11 月 10 日(日)	ゆめマルシェ (葛飾ロイヤルケアセンター)	6
第７回	１B	1 月 10 日(日)	東村山市民産業まつり (東村山市役所周辺及び天王森公園)	4

２．電話相談（医療と暮らしのほっとライン）【受託事業】

毎月 4 回、電話相談を実施した。相談内容と件数については以下の表のとおり。

事　　項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	0	26	0	26
病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題	0	25	0	25
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	0	5	0	5
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	0	11	0	11
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	0	21	0	21
看護や療養・生活指導をめぐる問題	0	2	0	2
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	0	5	0	5
その他医療福祉に関する相談	0	10	0	10
合　　計	0	105	0	105

３．公開講座【自主事業】

「やっぱり家が好き！～その願い、在宅医療が叶えます～」をテーマとして開催した。清澄ケアクリニック墨田院長・医師 刀禰智之氏及び医療ソーシャルワーカー 山岡裕美氏による会場・オンラインのハイブリットの講演会を実施した。参加者は会場３５名・オンライン２７名の計６２名であり、事前及び当日の質問に回答いただき、終了後も会場参加の都民から講師への質問が続くなど盛況に終了した。アンケートでも高評価を得た。

４．難病検診への参加協力

例年、難病無料医療相談会は東京都から委託を受け、東京都難病相談・支援センターが実施している。当協会では、難病無料医療相談会に毎回２～３名の医療ソーシャルワーカーの派遣をすることで協力し、専門医と面接前の事前面談を担当している。

今年度も相談会は新型コロナウイルス感染症の影響を受け医師のみによるオンラインでの開催となり医療ソーシャルワーカーとしての参加はなかった。

東京都難病相談・支援センターでは２０２５年度２月に「神経難病の患者さん、ご家族のための社会的支援について」というテーマで難病医療講演会開催を企画しており、その講演会に医療ソーシャルワーカーの講師派遣を当協会は依頼された。２０２４年度はその講演会の準備に向けた打合せを行った。

５．地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。

今年度も委員会をオンライン中心で行い、相談会開催に向けて検討を重ねた。例年行われていた福祉まつり等の中止の影響もあったが、対面での相談会を東京都委託事業地域巡回医療福祉相談会として７回開催することができた。

６．江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

２０２４年度は江戸川区介護フェアに参加した。１０月２６日（土）タワーホール船堀で相談コーナーを開設し、合計２８件の相談があった。２０２５年１月３０日（木)、江戸川区在宅介護医療連携推進多職種研修を運営、参加した。江戸川区健康部より医療現場においける現状と課題解決についての意見を求められ、取りまとめて１月２７日に提出した。

７．葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

２０２４年１１月１７日(日)にかつしかボランティアまつりにて独自相談会を実施した。かつしかボランティアまつりに参加するのはコロナ禍以降初めてであったが、主催者の協力をいただき参加できた。ソーシャルワーカーの活動を説明したり、地域住民の方より６件の相談があった。

８．西東京市医療福祉相談会【自主事業】

２０２４年９月２０日（金）西東京市の栄町地域包括支援センターの協力のもと民生委員向けに「利用者にあった病院・施設選び」をテーマに勉強会を行った。民生委員１３名、地域包括支援センター３名の参加であった。

また、２０２５年２月１日（土）「西東京市におけるこれからの介護と医療の地域連携を考える会～高齢者等終身サポート事業からみえる身寄りのない方の権利擁護～」を開催。

例年に引き続き、身寄りのない方の支援をテーマにしながら、今年度は身元保証に焦点を当て、一般社団法人愛の会 岡江晃児様を講師にお招きした。高齢者等終身サポート事業の利用方法等をご指導頂きながら、意見交換を行った。

今年度は在宅療養支援窓口担当者、社会福祉協議会は不参加であったが、地域包括支援センター職員、市内の病院の医療ソーシャルワーカー、市役所高齢者支援課の職員、計 34 名の参加であった。

９．豊島区医療福祉相談会【自主事業】

２０２４年１２月８日（日）としま区民センターにて、豊島区薬剤師会主催の健康展の中に相談ブースを設置し、豊島区独自相談会として開催した。３ブロック世話人を中心に医療ソーシャルワーカー１０名が参加し、健康展の来場者に対し、医療ソーシャルワーカーの役割について広報活動や地域住民の医療福祉相談に対応した。

１０．江戸川区神経難病検診【自主事業】

江戸川区・区医師会主催、（一社）東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、２０２４年１０月６日（日）江戸川区医師会館にて開催され、医療ソーシャルワーカー２名を派遣し医療福祉相談に対応した。

１１．災害支援活動【自主事業】

（１）支援活動の運営

東日本大震災以降、当協会内に「災害支援対策委員会」を発足させ、定期的に活動の打ち合わせを重ねてきた。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、２０１１年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

（２）被災者への支援

東京都への直接要望を実施し、「災害支援研修の拡大」、「広域避難者の健康、人権に対する支援の継続、強化」、「広域避難者への相談・心理支援・情報提供の体制を整備・充実」について要望を提出した。

（３）防災・減災、災害時対策

①災害関連情報ストック「みんなで学ぼう！災害制度」を協会内のホームページ内に設け、災害支援に関連する情報の蓄積に務めている。

②東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参画。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を継続中。今年度は東京ＤＷＡＴフォロー研修に２名の理事と２名の協会員が参加した。３月時点で１１名が登録している。

③理事、災害対策委員、世話人を中心に、災害訓練を実施し、災害時の対策を検討した。

④日本協会および、ＤＷＡＴの災害派遣を通じ、ブロック活動の勉強会にて報告を行った。

（４）会員や関係機関・団体への教育及び広報、協働活動
①災害支援ニュース「つたえる」をホームページに掲載した。
②災害支援対策委員会研修「災害現場におけるＭＳＷの役割について」を開催した。
③災害支援規定・災害時行動ガイドラインの改定を継続中。

【定款第２号事業】
２）会員の専門知識・技術の向上に関する事業

１．講　座【自主事業】
２０２４年度は「医療ソーシャルワーカーとしての経済的課題を持つ人への支援とソーシャルアクション」を柱に活動をしてきたことを踏まえ、講座の運営についても一般会員にも参加を呼び掛け、理事とで作った実行委員会で事業を進めた。
第１回は「身元保証アンケート報告会とつどい」として１２月２０日（金）の夜間にとしま区民センターにおいて２０２３年８月に作成した報告書について、身元保証に関する小委員会の委員が、直接会員に報告するとともに、参加者が日頃感じている現場での困りごとや解決にむけてのアイデアなどの意見交換を行った。
第２回は「生活困窮者自立支援制度を学ぶ」をテーマに、２０１５年に施行された本制度について、知識を深め、患者支援に活用できるよう企画した。講師には東京都福祉局生活福祉部地域福祉課生活困窮者担当課長代理の犬飼俊介氏と同事業を東大和市社会福祉協議会より委託されているやまて企業組合の担当者に依頼し、２０２５年３月４日（火）夜間に、としま区民センターで開催した。

２．研修会　※講師 敬称略
（１）新人研修【自主事業＋一部受託事業】
２０２４年度は特別講義をオンラインで開催し、「役割理解」と「個別援助技術」については従来の集合、対面形式でグループディスカッションを取り入れ、７月から集中コースのみで開催した。
受講生は定員以上の希望があったため５２名での開催となった。２０２４年度もオンラインでの研修での大きなトラブルはなく終了したが、受講環境が整っていない状況や職場からの受講のためか、対面での研修より集中を欠いている受講態度が見受けられた。また、２０２４年度も受講後振り返りシートを提出することで出席を確定するなどの対策を行った。

【講師】平田　和広　（東京都医療ソーシャルワーカー協会会長）
樋口　昌彦　（至誠会第二病院）
仲谷　恵美子（森山脳神経センター病院）
八木　亜紀子（アアリイ株式会社）
山谷　佳子　（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）
吉浦　輪　（東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科）
藤平　輝明　（研修講師・地域活動ボランティア　元東京医科大学病院医療ソーシャルワーカー）
小松　美智子（武蔵野大学客員教授・女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会）

（２）グループスーパービジョン【受託事業】

①Ａグループ

【講師】渡部　律子（日本女子大学名誉教授）

３年目以上のソーシャルワーカーを対象に、長年、対人援助職向けに講演や講義をされている渡部律子先生が講師となり、全１０回（６月より毎月第２土曜日の午後）開催し、受講生は定員９名で２０２４年度もすべてオンライン形式で行った。

今年度も「新たな視点から実践をみつめなおす」をテーマに、講師の渡部律子先生が作成した記入様式を使用して事例検討をしていき、事例のダイヤローグを、ロールプレイ形式で事例提出者や参加者が読み上げ、患者・家族の立場に立ってみて感じた事や気づきの共有がされる形式で行った。スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性をカデューシンたちが提唱している「民主的な関係」を基本に、事例提出者以外の参加者からは、事例についての質問・発言・意見などを行う形式をとった。今年度は参加者が増えたことで、２回目以降から事例検討を行ったが、オンラインによる緊張感も影響して、当初はメンバー間の活発な意見が出るまでに時間を要したため、中盤から事例提供者からの報告後に、グループを２つに分けて話し合ってから意見交換を行うやり方に変更すると、参加者間の力動がうまく反応して事例についてさらなる理解を深めることができた。参加者からは「事例のケースを通して、過去の自分の経験を振り返ったり、自分の考えや思いに向き合ったりできる時間が増え、この１年すごく成長を感じました。普段の業務の中で SWer が医療機関にいる意義が分からなくなる時もありますが、その時はここで感じたことや学んだことを思い出してめげずに頑張りたいと思います。」という感想があり、有意義な研修となった。

②Ｂグループ

【講師】取出　涼子（医療法人社団 輝生会）

ソーシャルワーカーの実務経験 1 年以上 5 年未満の当協会会員を対象として、２０２４年度も、認定スーパーバイザーでもあり現役の医療ソーシャルワーカーでもある取出先生に講師をお願いした。そのため、ソーシャルワーク援助プロセスをしっかりと実践することの重要性や相談援助のための様々な知識・技術を実際に実践に活かせるように、実践事例を通して学びを深めた。

受講生は９名で６月より毎月第４木曜日の夜間で１０回開催した。２０２４年度は全会とも集合対面で研修を実施した。初回は、講師から講義を受け、２回目からは受講者より事前に事例提供を受け、講師と事例提供者間の打ち合わせを行い、当日を迎えるスタイルでの開催で、事例提供者にはグループスーパービジョン研修の前に、個人スーパービジョンを受ける機会が提供された。

受講生からは、「グループスーパービジョンの事例を通し、援助のターニングポイントやアセスメントの切り替えなど、支援の前提に立ち戻り、何が足りていないのか、そのためにどんな新しいアプローチができるのか、考える必要性を学べた」とか、「アセスメントは、クライエントの問題を解決・支援するためにするものであるということ。そのため、クライエントの情報を聞く場合は、なぜその情報を聞くのかが説明できる必要があり、常に、根拠や意図を考えながら支援を行うことが大切だということが学べた」との感想があった。

③Ｃグループ

【講師】佐藤　俊一（ＮＰＯ法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長／日本ソーシャルワーク学会理事）

ソーシャルワーカーとしての実務経験３年以上の参加希望者を対象に、２０２４年６月から２０２５年３月までの 10 か月間、毎月１回、第３水曜日の１９時より、全１０回の講座を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大以降オンラインでの実施としていたが、今年度から対面でのグループスーパービジョンを再開することができた。

本講座は職場における対人支援の中でもやもやしたものを言語化し、〈する〉支援から〈かかわる〉支援へと変容させることで、実践力を高めることを目指している。初回はオリエンテーションとして受講生それぞれの所属機関や仕事内容などを共有し、受講生同士がコミュニケーションを図る事で、今後グループ内で率直な対話を行うために必要な土台形成を行った。２回目以降の講義は、佐藤講師の講義と合わせ、事前課題として受講生が精読したテキストを深め合い、それを基盤としたうえで受講生が提出した事例に基づきグループスーパービジョンが展開された。

受講生からは「毎回多くの学びがあった中で、特に「MSW が自分を懸けて、自分の気持ちを表す」ということばが印象に残っている」、「今までは周りの評価を恐れて、クライエントのお話を聞くばかりで対話になっていなかったと感じ、伝えてくれるクライエントに対し、誠実に自身の気持ちを返すことでより深く聴くことができるのだと実感できた」「違う職場で働く MSW さんたちと意見を交換することで共感できること、自分では気づかなかった点を共有でき、視野が広がり非常に刺激の多い学びの機会となった」等の感想を得ることができた。

（３）スーパーバイザー養成講座【自主事業】

【講師】福山　和女（ルーテル学院大学名誉教授）

本研修は第３火曜日、19 - 21 時、全８回オンライン形式にて実施された。今年度はその特性を活かし都内会員に加え、北海道、神奈川県、千葉県から合わせて １０名の会員、非会員が参加した。受講者の所属は精神科単科、整形・リハ科病院、国立病院、高度急性期、地域包括と多様で互いに研鑽を重ねた。

この研修の目的は「業務遂行能力の育成」とされ、社会変動の中で、今バイザーとして必要とされる姿勢を認識する機会を提供した。

受講者がスーパーバイザーとして組織内外にミクロ、メゾ、マクロレベルで及ぼす影響を認識・確認し、組織の構成員一人ひとりが成長へ向かうベクトルを保ち安心して業務を遂行できる場の構築、実現に必要な過程について学んだ。

研修の進行は各回ごと、各受講者が挙げる目標や課題に基づき講師と受講者が目標や課題全容の言語化を試み、適切なアプローチを選択し進められた。また、具体事例を用い多職種協働の推進における、スーパーバイザーのあり様等、実践上の具体的なアクションについて解きほぐし、その根拠を確認しながら学んだ。

受講後の受講者からは、「バイザーとしての自身の価値、尊厳の保持、バイジーの努力や貢献、専門職として互いに交わすコミュニケーションのあり方について収穫を得た。所属する組織内を俯瞰しシステム理論を活用した視点、あり方、方法について学べた。」といった受講

成果、収穫が示されている。
講師と受講者の単一の交流に留まらず、ロールプレイなどを活用したグループダイナミクスもあり、全国の医療ソーシャルワーカーが目標を共有、研鑽を積み重ね、実践の場で自ら展開している実践の専門性について振り返り今後へ活かす試みの場となった。

（4）連続講座【自主事業】
２０２４年度は、２０１９年より社会福祉士実習指導のカリキュラムが変更になったものの、内容をきちんと理解していないことや新しいプログラムの作成や実際の実習にどのように生かせば良いかなどを悩んでいる実習指導者が多くいることを踏まえ、「新カリ対応・社会福祉士養成実習の充実を目指す研修」というテーマで４回の講座を開催した。
第１回：１１月２１日（木）　オンライン開催
新カリキュラムの概要と実習受入れ対策（負担の軽減等）について
講師：田上　明（当協会　副会長、教育部長
日本社会福祉士会実習指導者講習会講師養成プロジェクトリーダー）
第２回：１２月１０日（火）オンライン開催
実習プログラムの作り方について
講師：畑　亮輔（北星学園大学准教授）
第３回：１月２５日（土）集合、対面開催（会場：福祉財団ビル　大会議室）
実習プログラムを作った際の困難だったことの整理と修正について
講師：小松　美智子（武蔵野大学客員教授）・田上　明
第４回：３月１日（土）１３：３０～１６：３０　としま区民センター
実習プログラムを生かす実習指導、実践（スーパービジョン）について
講師：小松　美智子（武蔵野大学客員教授）
ファシリテーター：内田　美沙子・工藤　麻希・笹本　千壽子・鈴木　万佐代・
高橋　三紀子・田上　明

（5）社会福祉士実習の課題整理の研修【自主事業】
２０２１年度より開始された社会福祉士養成カリキュラムでは、実習時間が２４０時間で２か所での実習となり、実習生を受け入れに際していろいろな変化が起き、負担も増えたので、実習生を送り出す側の養成校の団体の日本ソーシャルワーク教育学校連盟の東京支部の先生方と交流し、課題の整理や負担の軽減を目的に交流と研修を企画した。
開催日：２０２５年３月３０日（日）
会　場：としま区民センター
内　容：受入れ機関および養成校の現状報告、情報交換

３．プログラム検討委員会
協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。２０２４年度は議題の提案がないことから開催はなかった。

【定款第３号事業】
３）医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

１．医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕
当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

（１）成育医療等を考える小委員会
成育医療等に関する会員の知識、そして理解を深める機会として、冬の勉強会を１１月に開催した。その後、３月に勉強会講師の先生のご協力により、妊娠ＳＯＳ新宿シェルター見学会、新宿歌舞伎町パトロール同行を実施した。その準備のための小委員会の会議を定期的に（２か月に１回）にオンラインで開催した。
第１回 冬の勉強会　２０２４年１１月２７日（水）１９時～２０時３０分
「母子からのＳＯＳを支援する～シェルターとの連携～」オンライン開催
講師：佐藤　初美氏（妊娠ＳＯＳ新宿）
第１回　シェルター見学会　２０２４年3月１４日（金）１８時～２１時
第２回　シェルター見学会　２０２４年3月２１日（金）１８時～２１時
「母子からのＳＯＳを支援する～シェルターとの連携～」
シェルター雨宿り見学・新宿歌舞伎町パトロール同行
講師：佐藤　初美氏（妊娠ＳＯＳ新宿）

（２）身元保証に関する小委員会
本小委員会活動の成果物であるアンケート調査報告書への反響として、他団体からの講師依頼が増え､小委員会メンバーである理事を中心に外部講演への対応を主な活動内容とした。雑誌社からの取材依頼があり、ケアマネジャー向け専門誌に委員のコメントが掲載された。
「誰もが当事者！身寄りなし問題」２０２４年１０月号『月刊ケアマネジメント』環境新聞社等

（３）医療ソーシャルワーカーの現状と未来を考える小委員会
定期的に６回の委員会を開催し、会員の現状や未来についての思いなどを調査するために実施したアンケートの内容について集計や分析を行った。

[定款第４号事業]
４）刊行物の発行に関する事業

１．会員向けニュースレター「東京ＭＳＷ」の発行（各号 750 部）
会員向けニュースレター「東京ＭＳＷ」（３６９号5月、３７０号7月、３７１号１０月、３７２号1月）を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

２．機関誌『医療ソーシャルワーク』７３号の発行（８００部）
協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』７３号を２０２５年3月に刊行した。